



# 長野県難聴児支援センター ニュースレター

平成30年  
第1号

長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科



長野県難聴児支援センターは、きこえに心配があるお子さんから、難聴の確定診断をされたお子さんのご家族・関係者支援の拠点になることを目指し、平成19年6月に開設されました。このセンターは、信州大学医学部附属病院に隣接した県松本旭町庁舎内にあり、大学病院とは渡り廊下でつながっています。スタッフはセンター長（宇佐美真一教授）、小児難聴外来医師、言語聴覚士、療育支援員で構成されています。4月より、山岡美穂が療育支援員になりました。よろしくお願いたします。

このニュースレターを通して、新生児聴覚スクリーニングにかかわる情報やきこえ・ことばにかかわる情報、各種ご案内等をお届けしたいと思います。



## 「前期 第1回ファミリーセミナー」開催

5月12日（土）難聴児支援センターにて、第1回ファミリーセミナーを開催しました。

難聴が発見されたばかりの0歳のお子さんの保護者の方など、遠方からもご参加いただきました。

第1回は、難聴児支援センター長の宇佐美真一教授より「耳のしくみと音の伝わり方」「遺伝子診断からわかること」「治療の実際」等、事例や映像を交えてわかりやすくお話しいただきました。ご家族と対話しながら進められるお話しに、参加した皆さんは熱心に耳を傾け、「大切な家族のきこえ」に向き合っていました。

参加いただいた方からは、

- ・全く知識がないところでわかりやすくお話しいただき、不安が少し消えました。
- ・まずは難聴を理解することが大事だと思い、参加しました。原因や治療のお話を聞いて、良かったです。
- ・家族として、孫に上手に関わってあげることが大切だと感じました。
- ・遺伝子検査の必要性がわかったので、次回受診時に相談したい。

といった声が寄せられました。

この会の名称を「ファミリーセミナー」としているのは、お母さんだけでなく、お父さんやおじいさん、おばあさんなど、赤ちゃんを支える多くの皆さんにご参加いただき、「知ること」から一歩を踏み出してほしい。家族みんなで、育てる環境を考えてほしい。そして、多くの「仲間」を感じてほしいと願っているからです。

難聴のお子さんを支える皆さまのご参加をお待ちしております。



### 第2回ファミリーセミナー

日時：6月2日（土） 午前10時～

講師：宮川 麻衣子先生

内容：「聴力検査とオーディオグラム」  
「補聴器・人工内耳」など

（詳細はHPにてご案内いたします）



# 長野県から全国へ発信 「難聴児の学びへの支援」

～読売新聞に難聴児支援センターの活動が掲載されました～

この記事きっかけに、全国の小中学校で学ぶ難聴児が、持てる力を発揮して生き生きと学校生活を送ることができる環境づくりにつながれば、と思います。

## 医療ルネサンス

No.6799

子どもを守る

## 学びの場で

2/5

近年、新生児の聴覚検査や人工内耳が普及し、多くの難聴児が普通学級で学ぶようになった。同県では、難聴児の大半が地元の小学校に進む。



社会科の授業を参観し、れん君（左）の様子を見守る山岡さん（長野県松本市で）

# 難聴支援員が環境作り

先月末、長野県松本市立旭町中1年1組の教室。教師の話に静かに耳を傾ける生徒の中に、立花れん君（12）がいた。

その姿を少し離れて見守っていたのは、同県難聴児支援センターの療育支援員山岡美穂さん。教師の指示や仲間の発言への反応などを確かめてはメモする。

れん君は生まれてすぐ両耳の重い難聴がわかり、1歳半で人工内耳を埋め込む手術を受けた。早期対応のおかげで、耳から言葉を聞いて順調に覚え、地元の幼稚園と小学校で学んだ。

でも、あらゆる方向から発言が飛び交う騒がしい教室では聞き取る力が落ちる。難聴児専門の支援員は、長野県独自の制度だ。難聴児の授業を参観し、教員や保護者、本人と協力して聞こえやすい環境を作り上げる。

れん君の入学にあたっても支援員が教職員に研修を実施し、人工内耳の仕組みや聞き落としやすい場面、必要な配慮を示した。授業中、教師は胸元に特

殊なマイクをつける。話し声は無線で、れん君の人工内耳に直接届く。教師がどこにいても耳のそばで話しているように聞こえる。座席も、発言する友人の表情や板書がよく見える位置だ。

れん君は「おかげで授業に集中できる。先生が使うマイクについて新しい友達に聞かれた時、小学校からの仲間が、なぜそれが必要かを説明してくれてうれしかった」と笑顔で話す。

母親の祐子さん（35）は「幼稚園を選ぶ時から、支援員の先生によるきめ細かな対応があったので、地域の仲間と楽しく成長してこられた」と振り返る。

支援員は、ろう学校の教員が出身して務め、昨年度は保育園から中学校まで約360件訪問した。

医療との連携も密だ。難聴児の診療で有名な信州大病院は、難聴児支援センターと渡り廊下で結ばれている。支援員は日々、難聴児の診察に付き添い、治療方針を検討する院内会議にも参加する。聴力の変化や言葉の発達の具合を知り、親子の相談に積極的に対応する。医師の意見もすぐに聞ける。

同センター長で同大耳鼻咽喉科教授の宇佐美真一さんは「難聴児の能力を最大限伸ばすには、教育現場での配慮や工夫が不可欠。親の訴えだけでは体制が整わないことも多く、国をあげて専門の人材配置を進めるべきだ」と話している。

同センター長で同大耳鼻咽喉科教授の宇佐美真一さんは「難聴児の能力を最大限伸ばすには、教育現場での配慮や工夫が不可欠。親の訴えだけでは体制が整わないことも多く、国をあげて専門の人材配置を進めるべきだ」と話している。

同センター長で同大耳鼻咽喉科教授の宇佐美真一さんは「難聴児の能力を最大限伸ばすには、教育現場での配慮や工夫が不可欠。親の訴えだけでは体制が整わないことも多く、国をあげて専門の人材配置を進めるべきだ」と話している。

同センター長で同大耳鼻咽喉科教授の宇佐美真一さんは「難聴児の能力を最大限伸ばすには、教育現場での配慮や工夫が不可欠。親の訴えだけでは体制が整わないことも多く、国をあげて専門の人材配置を進めるべきだ」と話している。

## 長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2 階

療育支援員；山岡 美穂

※ご相談、お問い合わせ等  
お気軽にご連絡ください

